

流山市在宅医療介護連携推進事業

令和5年度の実績報告と

令和6年度の事業方針について

流山市役所健康福祉部介護支援課

令和6年3月28日

本日の内容

- 1、令和5年度の取り組みの振り返り
- 2、直近3年の取り組み状況
- 3、4つの場面における取り組み状況と課題について
- 4、令和6年度の事業方針の決定と全体会での検討事項

在宅医療・介護連携推進事業の手引き
Ver3における4つの場面



1. 令和5年度の取り組みのふり返り

<p>全体会</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業計画 ・ 急変時の対応について ・ 千葉県地域生活連携シートの活用による多職種連携 ・ 看取りを目的とした短期入所生活介護の現状について ・ 医療・介護現場における利用者や家族からのハラスメント対策について
<p>築部会 携・多 ・職 体制種 構連</p>	<p>病診施 連携班</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 在宅看取り推進のためのチーム作りとして、症例検討会を開催 ・ 入退院時の多職種連携について、具体的施策を検討中
<p>研修・啓 部会発</p>	<p>専門職 研修班</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 介護と医療をつむぐ会を年5回開催（参集型での開催） 第1回：55名参加 第2回：36名参加 第4回：名42参加 第5回：56名参加 <p>市民 啓発班</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 市民公開講座を開催（第3回つむぐ会と合同開催、74名参加） ・ おうち療養情報紙発行（3月21日発行）

1・令和5年度の取り組みのふり返り

流山市
(事務局)
その他

- ・ 情報共有システム研修会実施（3月 参加者25名）
- ・ ホームページの掲載内容や更新頻度を見直し、適宜ホームページ情報を更新
- ・ GISを活用した介護保険事業者情報の更新
- ・ 出前講座の実施（4回開催、参加者数計108名）
- ・ 「医師連絡可能時間一覧表」等の更新はなし
- ・ 在宅医療・介護連携に関する相談支援 1件
- ・ 東葛北部5市会議に2回（7月、1月）に参加
- ・ 病院相談員連絡会に3回（8月、11月 R6 3月）参加
- ・ 認知症初期集中支援チームの対応（6件）
- ・ 認知症初期集中支援チーム検討部会の開催（R6 3月）

2. 直近3年の取り組み状況

令和6年3月現在

		令和3年度	令和4年度	令和5年度	目標値	達成度	目標値設定の考え方
医療・介護の専門職の顔の見える関係作りの体制を構築する 医療・介護の専門職の知識・技術が向上する	つむぐ会開催回数	5回/年	5回/年	5回/年			事業計画で定められた取り組みを維持することを目標とする
	つむぐ会参加人数	340人/年	259人/年	263人/年			直近値からの増加を目指す
	つむぐ会アンケート満足度(年度平均)	—	—	94.5	↑		現状からのアップを目指す

2. 直近3年の取り組み状況

令和6年3月現在

		令和3年度	令和4年度	令和5年度	目標値	達成度	目標値設定の考え方
医療・介護の専門職がスムーズに情報共有できる	情報共有システム 登録者数	360	427	473			直近値からの増加を目指す
	情報共有システム 登録事業所数	85	139	143			
	情報共有システム 作成部屋数	22	20	24			
	情報共有システム 研修会の実施回数	1回/年	1回/年	1回/年			事業計画で定められた取り組みを維持することを目標とする

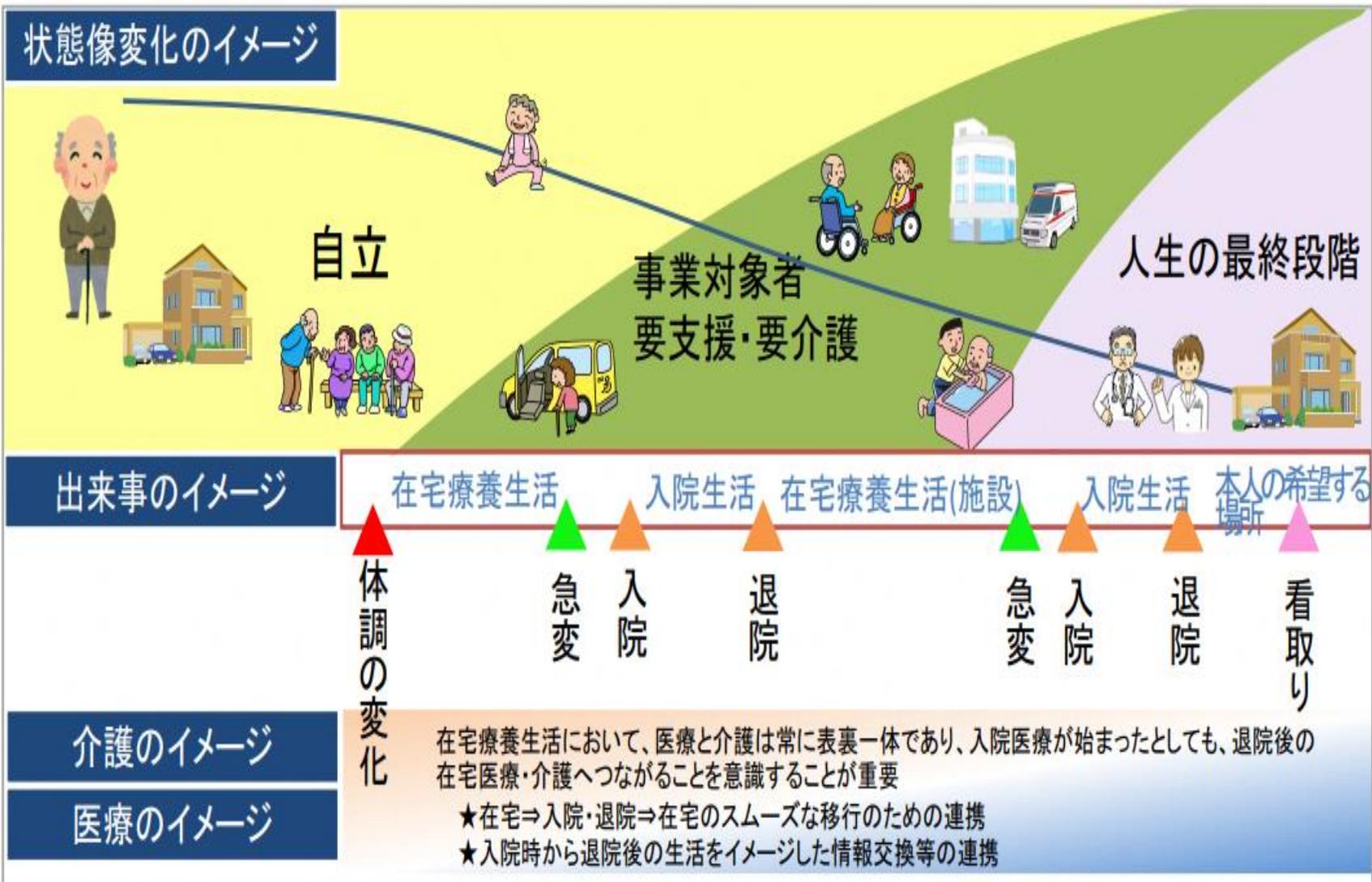
2. 直近3年の取り組み状況

令和6年3月現在

		令和3年度	令和4年度	令和5年度	目標値	達成度	目標値設定の考え方
市民が在宅療養について理解する	市民公開講座 開催回数	1回/年	1回/年	1回/年			事業計画で定められた取り組みを維持することを目標とする
	おうち療養情報紙 発行回数	2回/年	1回/年	1回/年			
	出前講座実施回数	2回/年	3回/年	4回/年			直近値からの増加を目指す
施設での看取りを増やす	看取り症例検討会	1回/年	1回/年	2回/年			現状からのアップを目指す

3.4つの場面における取組状況と課題について

図 8 高齢者の状態像の変化と出来事のイメージ



<p>日常の療養支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多職種協働による患者や家族の生活を支える観点からの在宅医療・介護の提供 ・緩和ケアの提供 ・家族への支援 ・認知症ケアパスを活用した支援 	<p>入退院支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入院医療機関と在宅医療・介護に係る機関との協働・情報共有による入退院支援 ・一体的でスムーズな医療・介護サービスの提供
<p>急変時の対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ・在宅療養者の病状の急変時における往診や訪問看護の体制及び入院病床の確認 ・患者の急変時における救急との情報共有 	<p>看取り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・住み慣れた自宅や介護施設等、患者が望む場所での看取りの実施 ・人生の最終段階における意思決定支援

在宅医療・介護連携推進事業の手引き ver.3 (令和2年9月)

3. 4つの場面における取組状況と課題について

- (1) 情報発信及び資源把握
- (2) 情報共有システムの活用
- (3) ACPの普及啓発
- (4) 在宅看取りにおける体制構築
- (5) 医療・介護・消防（救急）の多職種連携

(1) 情報発信及び資源把握

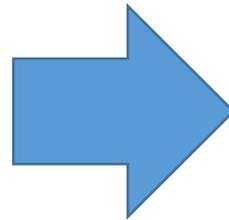
1. ホームページでの情報発信

【課題】

- ✓ 知りたい情報にアクセスしにくい。
- ✓ 事業で行っている取り組みがわかりにくい。

現在掲載内容

事業概要、おうち療養情報紙
ICT、千葉医療なび
介護施設マップ



令和6年度中

- ・ 会議録、つむぐ会だより
事業評価指標の掲載
- ・ 在宅療養支援診療所等の情
報掲載の検討

2. GISを活用した介護保険事業者情報の更新

令和6年度中に、介護保険事業所に加え在宅療養に関する医療機関情報を掲載予定

(1) 情報発信及び資源把握

3. 在宅療養支援診療所の実態把握調査

■目的

在宅医療提供体制について、受け入れや連携の実態を把握し、流山市内の在宅医療に係る関係者の連携体制構築のため現状や課題を分析する。また、市民や医療・介護関係者に対して、活用できる情報提供を行うために、実態を調査するもの。

■調査方法

ヒアリング調査

■調査期間

令和6年3月～5月（予定）

(1) 情報発信及び資源把握

3. 在宅療養支援診療所の実態把握調査

■スケジュール（予定）

日程	内容
令和6年 3月～5月	調査実施
	令和6年度第1回在宅医療介護連携会議で進捗状況報告
	公表内容及び方法の検討
6月	調査結果集計・課題の把握
7月	公表準備
	第2回在宅医療介護連携会議で結果報告
8月	医療介護関係者、市民へ公表

(2) 情報共有システムの活用

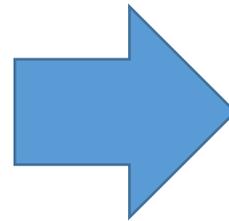
【課題】

- ・ 情報共有システムで連携を取りたい事業所がシステムの登録をしていない。

1. 情報共有システムの機能の拡大

現在

システムの利用を希望する医療・介護・障害福祉サービス関係者の利用申請により、個人にIDを付与し、システム利用対象者（患者）の在宅療養に関する情報共有を行う。



令和6年度中より

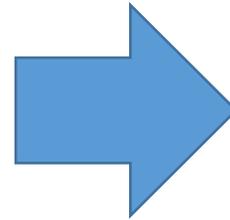
現在の機能に加え、情報共有システムのIDがあれば、居宅・サービス事業所連携機能（ケアプランデータ連携）を活用できるようにする。

(2) 情報共有システムの活用

2. 災害時の情報共有の体制構築

現在

災害時の情報共有の部屋（災害・感染症発生速報）を開設。自事業所のみで利用者へのサービス提供の継続が難しい場合の、事業者間の連携のためのツールとして検討。システムの利用は、IDのある個人のみ。



令和6年度中より

IDの付与を事業所単位とし、市内全介護保険事業所に参加を義務付ける。電子証明書不要とし、どの端末からでもログイン可能とするため、個人情報の使用は不可。

(3) ACPの普及啓発

1. 市民公開講座や出前講座における取り組み

【課題】

- ✓ 若い世代の集客に至らない⇒40・50代の参加（20%程度）
- ✓ 市民の声やニーズを生かした講座にするにはどうしたらよいか

【令和6年度の取り組み】

- 開催方法の工夫⇒参集型＋オンデマンド配信など
- 開催内容の工夫⇒市民のニーズを吸い上げ反映した内容など
- 周知方法の工夫⇒オンデマンド配信などにより、自分の都合で講座を視聴可能にする
⇒LINEやメールとの連動やQRコードの活用

(3) ACPの普及啓発

2. おうち療養情報紙における取り組み

【現状】

- ✓ 紙媒体で年1回発行（3月21日の新聞折込にて配布している）
- ✓ 掲載内容

【令和6年度中の取り組み】

- **在宅療養やACPに関する掲載内容を検討する**（以下は案の一部）
 - ・ 出前講座でカード型切り取りつきリーフレットを配布し、一緒に考え記載してみるなど普及方法の工夫と出前講座の様子を写真に撮り、掲載する
 - ・ 市民公開講座において、カード型切り取りつきリーフレットを配布し、その時の市民の声を聞く、様子を見ながらACPへの関心の程度を把握する

(3) ACPの普及啓発

3、日常的な取り組み

【課題】

- ✓ 高齢者実態調査において80%近くの高齢者が人生会議を知らない現状
- ✓ 健康上の困りごとがなく自分事に考えられない、イメージがわからない
- ✓ 介護サービス事業者調査で話を切り出すことが不安な現状が見えた(70.8%)

【現状】 ACPが浸透していない



普及啓発のためツールの検討を重ねた

- ・ シンプルで、ホームページにアクセス可能となるよう情報発信の工夫
- ・ 啓発なら啓発に特化する、重く受け止めないような内容にする
- ・ 身近ですぐ手に取れ、身に着けたり、目に触れるところに置くなどの工夫
- ・ 気持ちは変化するものであるため、記載した日にちを入れる

(3) ACPの普及啓発

3. 日常的な場面での取り組み【令和6年度中の取り組み】

①カード型切り取りつきリーフレットを用いた普及啓発（案） 19スライド参照

【配布先】 出前講座、市民公開講座など

【配布方法】 講座の中で書き方を説明し、一緒に書いてみる

【配布時期】 R6 5月～出前講座にて開始予定

【配布予定数】 200枚程度

【今後の方針】 講座などでの反応やアンケートなど踏まえ、使うか否かを検討する、流山市の名入れを行いオリジナルにする、配布対象はどうするかなど普及拡大について検討していく

②急変時や認知症の方の意思決定・ACPの支援について

おもて

大切な人に伝えてみませんか？



「もしも」のときの医療・ケアについて伝えるカード 付き

もしも…

寝たきりになったら



これ以上、病気の治療が難しいといわれたら



認知症などで、自分の意思が伝えられなくなったら

人である限り、私たちはいつか人生の最期を迎えることになります。自分らしい人生をまっとうするためには、自分がどのような医療やケアを受けたいのか、どんな価値観をもっているのかを日ごろから考え、家族など大切な人と共有しておけば安心です。

あなたの「思い」が、「もしも」のときの家族の支えになります。

あなたの希望について、「いまの気持ち」を書き記してみましよう。気持ちが変わったときは何度でも書き直しましよう。



わたしの希望、大切にしていること、不安な気持ち

自由な書きこみ欄

自由に書いてみましょう

連絡先

連絡先入力欄: 地域包括支援センター、家族・身近な人、かかりつけ医など

もしも のときの医療・ケアについて伝えるカード



名前、年齢、性別入力欄

カードに書き込んでみましょう

うら

下のカードの質問1、2について、あなたの気持ちに近いものにチェックを入れ、理由を書いておきましょう。質問3には、身近な人の名前を記入してください。

書き込むだけでなく、なぜそう思うのかを、身近な人やかかりつけ医などと共有しておく、実際に医療が必要になったときに、あなたの希望がかないやすくなります。

切り取って保険医などといっしょにお財布などに入れておきましょう。

1. 人生の最終段階の医療について

- あなたの気持ちほどれに近いですか?
 できるだけ延命治療をしてほしい
 延命よりも、痛みや苦しみをとりのぞく医療をしてほしい
 回復の見込みがなければ延命治療はしないでほしい

自由に書いてみましょう。

2. 療養場所について

- あなたの人生の最終段階をどこで過ごしたいですか?
 自宅 老人ホームなどの施設 病院
 わからない

自由に書いてみましょう。

3. 家族や信頼する人について

- あなたが意思表示できない場合に、自分の代わりに医師と相談して医療・ケアの選択をしてほしい人は誰ですか?

名前、氏名入力欄

大切な人にこんなことを伝えてみよう!

どのような医療・ケアを望むか

どこで過ごしたいか

大切に思っていること

不安に思っていること



医療やケア、療養場所について相談したいときは

地域包括支援センターへ

高齢者のための総合相談窓口です。地域の高齢者が抱える問題を、医療機関、介護サービス事業者などと連携して支援します。



(4) 在宅看取りにおける体制構築

【課題】

- ✓本人・家族の意向のすり合わせが困難、急変などの際に本人の意向確認が難しく、本人の意思・希望が尊重されない可能性がある。
- ✓訪問看護と訪問介護間など、職種間での情報共有や相談できる関係性の構築
- ✓他職種間の円滑な情報共有のためのカナミック等ICTの活用

(4) 在宅看取りにおける体制構築

【令和6年度の取り組み】

1. 在宅療養・看取り推進のための症例検討会の開催

■目的

地域の医療、介護の体制（チーム）構築を推進する

■課題

- ・時間の問題や、オンラインであったことなどから、思うように発言できない参加者がいた。
- ・事前準備をしすぎて作りこみ感が生じてしまうこと。
- ・他職種のみならず、それぞれの考え方の違いを受け入れること。
- ・参加者の継続性

→内容や方法を検討し、令和6年度は市内4圏域で開催予定。

(5) 医療・介護・消防（救急）の多職種連携

1. 在宅⇔医療機関

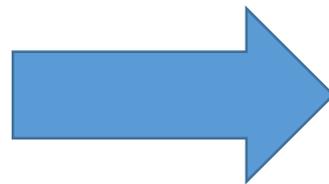
【課題】「千葉県地域生活連携シート」を入退院時の情報連携として活用しているが記入項目が多い、知りたい情報が伝わらない



つむぐ会でのアンケート、委員の皆様から頂いた意見をもとに、記入項目を絞った「簡易版千葉県地域生活連携シート」の試験活用を予定

令和6年4月から10月

流山市医師会に「簡易版千葉県地域生活連携シート」目的・活用を説明。その後、流山市内医療機関、流山市内介護事業所に簡易版千葉県地域生活連携シートの試験的活用に関しメール・カナミック・郵便で周知。半年間の試験的活用開始。様式は、市ホームページ、カナミックに掲載予定



令和6年10月

簡易版千葉県地域生活連携シートに関し市内医療機関、流山市内介護事業所に対し使い勝手のアンケートを予定⇒再度、活用についての意見を聞き、改めた方がよいところは修正

(5) 医療・介護・消防（救急）の多職種連携

2. 介護と医療をつむぐ会

【課題】

- ✓顔の見える関係については、実際にケース相談が気軽にできるようになっているのか
- ✓つむぐ会開催について、どの時間、日程で開催したとしても、職種によって出席が難しい日程、時間がある

【令和6年度中の取り組み】

- ・情報共有システム、オンデマンド等を活用し研修内容を掲載することを検討
- ・在宅医療介護連携推進事業で課題にあがっているテーマを取り上げ現場の専門職の生の声を聴く場として活用
- ・気軽に参加できる会の検討

(5) 医療・介護・消防（救急）の多職種連携

3. 急変時に備えた消防（救急）との連携～専門職

【課題】

- ✓ 独居の方の急変時、救急車への同乗を求められる
- ✓ 必要な情報入手するために現場滞在時間が長くなる

【令和6年度取組み】

- 救急車への同乗がないとどのような支障が生じるか、同乗に代わる手段や方法などについて連携会議で検討する
- 必要な情報入手に関し救急情報カードは活用されているため、年1回の定期的な更新や普及方法について検討する

(5) 医療・介護・消防（救急）の多職種連携

【課題】市民向けACPの普及啓発

【現状】

- ✓本人や家族が急変時のイメージがわからず、自分事として考えられない
- ✓在宅看取りを希望していても、急変時に救急車を呼んでしまい本人の望みがかなわない

【令和6年度取組み】

- 在宅療養高齢者や家族等に対し、急変時の対応について関係者とともに考えてもらう取り組みについて検討する
 - ・救急要請をすとはどういったことか
 - ・かかりつけ医、訪問看護を導入している場合は、救急要請する前に相談するなど
- ACPの普及啓発のための取り組み・・・(3)ACPの普及啓発 スライド15～19参照

4、令和6年度の事業方針の決定と全体会での検討事項

- (1) 情報発信及び資源把握
- (2) 情報共有システムの活用
- (3) ACPの普及啓発
- (4) 在宅看取りにおける体制構築
- (5) 医療・介護・消防（救急）の多職種連携

→事業方針について委員の皆様のご意見をお聞かせ下さい。

4、令和6年度の事業方針の決定と全体会での検討事項

◆在宅医療介護連携会議

	開催日		時間	場所
第1回	令和6年	5月30日(木)	19:00~21:00	市役所第2庁舎3階 301・302会議室
第2回		7月29日(月)	19:00~21:00	市役所第2庁舎3階 301・302会議室
第3回		9月30日(月)	19:00~21:00	市役所第2庁舎3階 301・302会議室
第4回	令和7年	1月20日(月)	19:00~21:00	市役所第2庁舎3階 301・302会議室
第5回		3月17日(月)	19:00~21:00	市役所第2庁舎3階 301・302会議室